

# 「めざせ 日本一！」 — プロの仕事しよう —

## 「幸せを願って」

NO.246

H27. 1. 6

(株) ユ キ  
ダスキン新居浜支店  
社長 小野 正師

「猿の軍団に学ぶ」

合掌 平成27年の新年、明けましておめでとうございます。皆さま、ご家族お揃いでゆったりとお正月を過ごされましたか。今年も、皆々さまのお幸せを心よりお祈り申し上げます。

さて、新年の4日(日)、驚きの体験をしました。この数年、数匹の猿の群れに出合うことがあり、四国の山々は殆どが植林され猿も食べる物が少なくなり、人里まで降りてくるようになったのかと漠然と考えていました。しかし、この日は屋前から近所の飼い犬たちが、あちこちにぎやかにワンワンと吠える声が聞こえていました。天気も良く穏やかな日でもあったので、2歳の孫と一緒に家の周りをブラブラと歩いていました。

(我が家と会社は、四国山脈の麓にあり、初めて来られた方は、皆さんどこまで山奥に入っていくのかと必ず驚かれます。40年前に創業者鈴木会長が、「ユキさんここでやりましょう」と、いくつかの候補地の中から選ばれ、蜜柑畑だった山裾の地を造成して、全国第一号の愛の家(愛の店構想の前)が建てられました。当時は、シーダーさん憩いの家とも呼ばれ、今は会長直筆の「ダスキン愛の家」の木看板だけが残っています。ここは、神社とお寺の掌(たなごころ)に守られた、静謐な空気に包まれた土地です。)

すると、100m余り離れた近所の神社の参道辺りの木々が大きく揺れながら、キーキーと鳴き声が聞こえ、何かしら異様な雰囲気です。何匹かの猿が見え始めました。自宅の庭から、「おお、お猿さんだ。お猿さんだ。」と、指差しながら孫を抱いて一緒に眺めていました。ただ、今までになく小グループではなく、かなりの大群です。そのうち、近くの川や田圃を越え、200m余りの隣の山へ移動を始めました。

まず、若い(と思う)リーダー格の雄猿が2匹、先に安全を確かめながら渡ります。何とその後から、次々と赤ちゃん猿を抱えた母猿や自分で走れる子猿たちが、どんどん渡って行きます。その数、子猿たちが15~20匹、親猿が20匹余りでしょうか。そして、最後に全員(全匹?)が移動し終えるまで待っていた、身体が一番大きいボス猿と若手リーダーが3匹、悠然と周りを見渡しなが走り去って行ったのです。

多分、4~50匹になる猿の大軍団でしたが、見事に統率が取れています。ボスやリーダーは、まず安全を確認した上で、雌や子猿を先に移動させます。そして、全員が渡り終えたかどうかをしっかりと確かめて、自分たちが最後に渡ります。

人間社会よりも、見事なお手本を示してくれました。私たちの世界は、皆が平等、それぞれの個性を尊重して言いたい放題やりたい放題、命令されたり怒られるのは嫌、自由気まま我儘自分勝手です。人間のオスとメス

は、お猿さんに比べてどうなのでしょう。

翌、仕事始めの5日は、ちょうどその神社(妙見神社・目の神様)の托鉢の日でした。毎月、初午(はつうま)の日に祭礼があり、近隣からお年寄りたちが沢山お参りに来られます。ここに引っ越してから、毎月その前日に、始業30分前の8時から托鉢の清掃活動を行っています。今日も、30名余りが自主参加してくれました。お猿の大群が暴れ回った後の境内は、ドングリの木の枝が一杯落ちていました。晴天に恵まれた、すがすがしい新春の朝のスタートが切れました。

実は、この妙見神社は、母親から後で聞いた話ですが…。私の父は、元日本陸軍・憲兵として10年間に亘り職業軍人として奉職しました。その後、2年間の戦争刑務所暮らしを経て、南方から奇跡的に帰国し、母と見合い結婚し5人の子に恵まれました。田舎の肥料・酒・塩・タバコ・切手等の専売品を扱う商売をしながら、残りの人生は亡くなった戦友の霊を弔うため、軍恩関係のお世話を最後まで続けていました。憲兵でありながら死刑にならなかったのは、商業学校を出ていたため後方の補給関係の任務に就いたこと、戦争裁判で現地の人々が「その人は人を殺めなかった」と、証言してくれたおかげでした。柔道5段の父は生前、「人を泣かすなよ。弱いものイジメはするな。国や社会の役に立つ大きな人間になれ」と、口癖のように言っていました。そして、不思議だったのは、その妙見神社を父の母(祖母)が出征中毎日お百度参りをして、境内の清掃をしていたとの事でした。そんな事が、奇跡的な生還に繋がったのでしょうか。人の運命は偶然のように見えても、全て必然の繰り返しであり、どう生きて行くかは、先祖からの徳の賜物であり、次代へ命を繋げる役割を果たすべく、今ここに自分が存在しているのではないのでしょうか。

夫婦互いの先祖を遡れば、計算上27代で1億人を軽く超えます。理論上、途中の1本の線が途切れていれば、今の自分は存在しません。今ここに在る事は、正に奇跡なのです。親となり、子が生まれ、孫に命が繋がる時、自分の存在理由が問われているような気がします。

50年経ったダスキンを次代へどうバトンを繋いで行くのか。私たちの責任と大きな使命をどう費やすのか、皆さんと考え合い次の行動に活かしたいと思います。

どうか、本年も皆さんの知恵と総力を結集して、全国加盟店会を盛り上げて参りましょう。宜しく願いいたします。

ありがとうございました。 合掌

\*ダスキンの新居浜支店の皆さまへ

改めて、心より平成27年新春のお慶びを申し上げます。今年も宜しく願いいたします。

お陰さまで、本年の未年で私たち夫婦は本厄を迎えました。自分たちが60歳の大台を迎えたとは思えず、まだまだ若いぞと思いながらも、現実の内緒ですが、室長などは色んな点で(体力・気力・体型・記憶力・その他)明らかに、おばあちゃんになってきました。(私もそうなんです)自宅で、孫がいない時に、冗談で「ばあさんや」と言うと、ムキになって「私は、あなたのばあさんじゃない」と怒っていましたが。有り難いかな、ちょっと寂しいかな、こうして順番に年を重ねてこられた事に感謝申し上げます。 ありがとうございます。 合掌